

補正予算を組み替え、早急に臨時市議会開催を

坂戸市議会は 9月24日 補正予算(案)を反対多数で否決



坂戸市は、9月議会に対し国の経済危機対策臨時交付金5億2,248万円を含む総額21億3,215万円の補正予算案を提出しましたが、市議会はこれを反対多数で否決しました。

坂戸市は、経済環境の悪化による歳入不足が生じているとして、歳入面で、これまで積み上げてきた「坂戸市公共施設整備基金(41万円)」「坂戸市都市整備基金(164万円)」「坂戸市市債管理基金(164万円)」「坂戸市斎場建設基金(8億6,900万円余)」の4基金をすべて廃止して財政調整基金として自由に使えるようにしようという予算を組みました。

歳出面では、民生費や教育費として6億9,506万円を計上し、市民生活に直結する「子育て応援特別手当支給(1億1千万円余)」「老人福祉センタ-施設改修(1億2千万円余)」「学校施設地震防災対策(9千万円余)」「学童保育所建設(4,900万円余)」「民間保育園運営補助(3,200万円)」などを盛り込んでいます。しかし同時に、仮称坂戸スマ-HC整備事業(3億6千万円余)など土木費に4億4,919万円を新たに計上し、火葬場建設基金(1億円)を新規に計上するなどしています。国からの地域活性化・経済危機対策臨時交付金等は、5億2,248万円あり、予算案の否決は、子育て支援や学校関係、新型インフルエンザ対策など市民生活に直結し必要不可欠なものが多く占めておりこのままでは、市民生活に重大な影響が生じてしまいます。



坂戸市は 不要・不急の支出 を見直し臨時市議会開催で 予算の審議を。

これまで坂戸市は、平成13年当時約30億円あったさまざまな基金を取り崩し(平成20年度決算だけでも財政調整基金から2億4,700万円、都市整備基金から9,900万円、市債管理基金から9,954万円の合計4億4,554万円を取崩してきているのです)その結果、この4つの基金残高は底をついています。それに今回の斎場建設基金8億6,941万円を取崩せば、基金はなくなり市民の願いである「斎場建設」は遠い将来へ先延ばしされることは確実です。

では、福祉や教育、住環境の分野で坂戸市民は他の市町村に住む人より優遇されているのかといえばそうではありません。「国民健康保険」は赤字と称して大幅な値上げを行い、滞納者は急増し3,846世帯(加入世帯の23.2%)に達しています。これは、一般財源からの国保会計への繰入額が他市に比べ異常に低く、加入者に高い保険料負担を強いて

います。(埼玉県平均で1人当16,700円、県内40市平均16,698円、坂戸市は6,062円で40市中下から3番目)

消防署が赤字だからといって、救急車や職員を減らせなどと誰も言いません。命と生活を守る仕事だからです。国民健康保険は医療の命綱です。保険証を取り上げるなどんでもない行政ではないでしょうか。

毎年、10万人が利用していた「せせらぎ荘」の廃止も「市民参加条例」にはかるべきではなかったでしょうか。



商工業の分野でも、市内の商店会への補助金は6商店会などに1,390万円です。が、入西への工場誘致した奨励金は6社で928万円の支出です。商工会への補助金は1,150万円で1事業所単位で見ればわずか7,264円しかありません。(いずれも20年度決算報告より)

また、坂戸市の35歳から50歳の人口割合が異常に低い現象があります。それは、例えば県営住宅は坂戸市には8棟270戸しかなく、隣の鶴ヶ島市は17棟456戸、東松山は14棟373戸あります。失業率が最高に達し、非正規雇用者が1,000万人を超える状況のもとで低所得者に対する生活支援、子育て世代を応援する施策に乏しい坂戸市の特徴を表わしているのではないのでしょうか。

このままでは「市民がつくり育むまち、さかど 市民参加によるまちづくり」の看板が泣く

市職員の人員削減や給与カットで働く意欲を奪うのではなく、市民の目線で今何が必要で、何ができるのか。早急に全庁的検討を行い、補正予算を市民の生活支援の立場から組み替え、臨時市議会を開催し議決を得るべきです。先日の衆議院選挙で示された政権交代は国民の目線でこれまでの政策の流れを変えようという国民の意思表示の結果ではなかったでしょうか。



まだ懲りない? 議会を傍聴して...

議会は最終日、市民から提出された「子供医療費の窓口払いの廃止と無料制度の段階的拡大を求める」請願を審議した。この請願は6月議会にも提出されておりそのときは反対した保守、公明議員が、今回提出された「市税を滞納していないことを条件に」という請願には賛成した。市税を完納していることを条件にするなど教育・福祉分野に新たな差別を持ち込む請願に賛成するとは、後期高齢者医療制度の導入や健康保険証の取り上げ制度を実施してきた自公前政権の格差社会の拡大につながるもので、「庶民の気持ちを忘れ、福祉の心を放棄した」前政権を国民は拒否したのに、この議員さんたちはまだ懲りないのか。という思いがした議会傍聴でした。

資料

基金の取崩しは財政運営に支障があると、取崩しは限界になっていることをしめし「基金の確保」の方向を示した総合政策部財政課の資料から抜粋。

平成20年度はここからさらに財政調整基金から2億4,700万円、都市整備基金から9,900万円、市債管理基金から9,954万円の合計4億4,554万円を取崩してきているのです。

一般会計からの国保会計への繰入金
(1人当り)単位 円

ふじみ野市	34,113
朝霞市	25,697
狭山市	23,674
日高市	22,314
和光市	21,889
東松山市	21,524
新座市	20,197
入間市	17,946
所沢市	17,419
富士見市	16,096
川越市	15,240
鶴ヶ島市	14,405
飯能市	12,037
志木市	9,695
坂戸市	6,062

坂戸市総合スポ - ツ施設及びせせらぎ荘の利用状況(平成20年度)

	利用人数
ア - リ - ナ	38,759人
プ - ル	47,779人
せせらぎ荘	97,922人

せせらぎ荘は6月で廃止されました

10. 基金 — 取崩しも限界に —

本市の貯金にあたる基金は、財政調整のための基金である財政調整基金、都市整備基金、公共施設整備基金及び市債管理基金の4基金と、特定の目的のために設置した畜場建設基金、地域福祉基金、緑と花と清流基金、国民健康保険基金、国民健康保険出産費貸付基金、介護保険給付費準備基金の6基金があります。

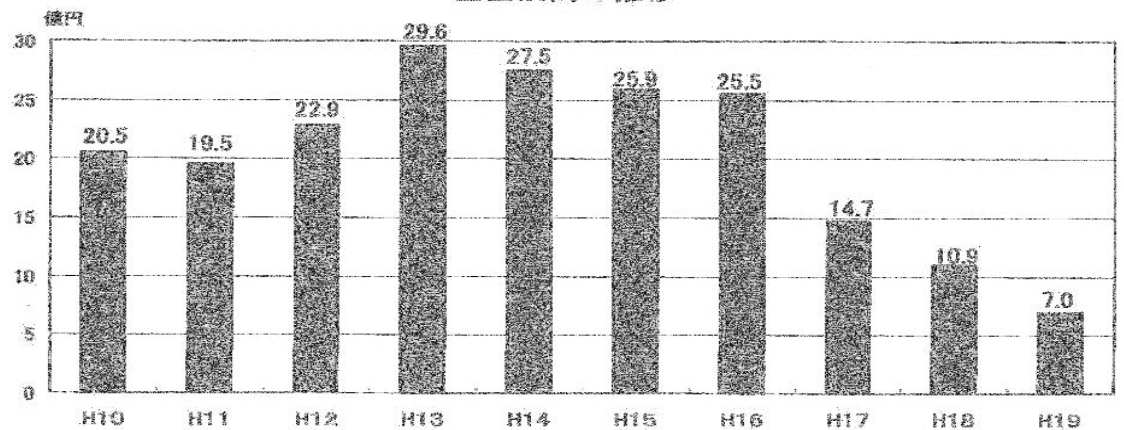
財政調整のための4基金残高の合計は、平成3年度末に70億円を上回っていましたが、その後の西清掃センター等の建設に伴い急速に減少しています。

また、近年においては、平成13年度末に約30億円まで残高が回復したものの、その後三位一体の改革による地方交付税の減少に伴う歳入不足を補うため、基金からの繰り入れを続けた結果、平成17年度末に半減となり、平成19年度末には僅か7億円台まで減少しています。

なお、三位一体の改革に伴う地方交付税の削減は全国規模で行われており、全国知事会の地方消費税検討特別委員会では、平成23年度までに都道府県、市区町村とも基金が枯渇するとの試算を明らかにしています。

しかし、基金が少ないと財政運営に支障となることも想定されることから、今後も事業の見直しを進め、基金を確保していく必要があります。

基金残高の推移



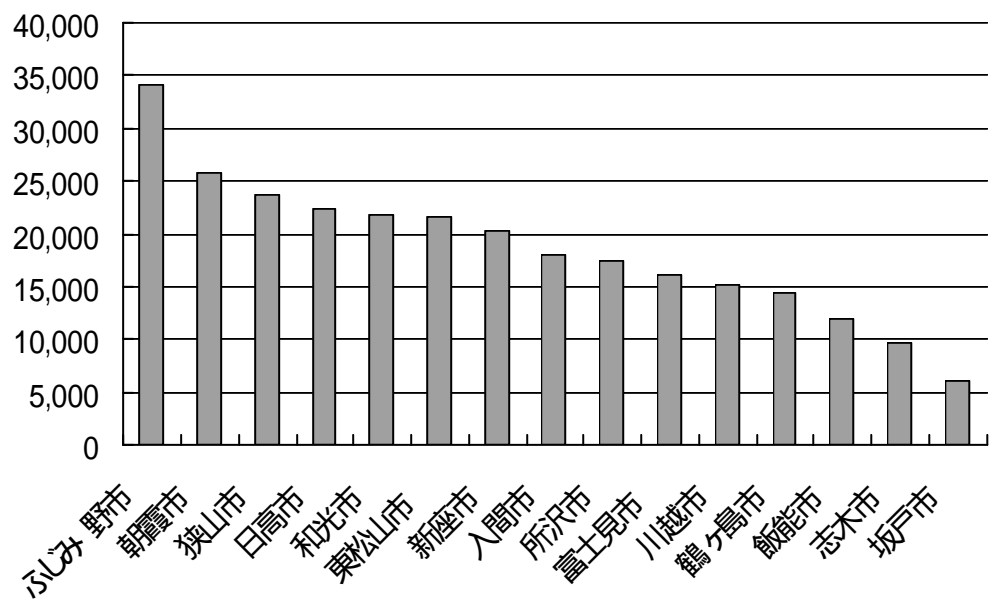
財政調整基金・・・財政調整のために設置した基金

都市整備基金・・・都市施設の整備を目的とする事業の効率的な推進を図るため設置した基金

公共施設整備基金・・・公共施設の整備費用に充てるため設置した基金

市債管理基金・・・市債の償還に必要な財源を確保し、将来にわたる市財政の健全な運営に資するため設置した基金

国保1人当の繰入金



今度は下水道料金的大幅値上げ(最大一七倍)案も浮上。坂戸鶴ヶ島下水道組合